

# あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山  
愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内  
電話：0567-55-9993

## S字状口縁台付甕形土器

古代遺跡の遺物の一つにS字状口縁台付甕形土器（えすじじょうこうえんだいつきかめがたどき）というものがあります。東海地方の弥生・古墳時代を代表する出土物であり、今で言う炊飯器らしいのですが、美しい芸術品とも思います。

平成26年11月から平成27年3月にかけて愛西市南河田町にある八竜遺跡で工業団地開発に伴う発掘事業が実施されました。調査結果は現在愛西市教育委員会が分析していますが、速報として一部結果が公開されています。

今回、八竜遺跡からは多数の柱穴や井戸（住居跡）、溝などの遺構が発掘され、それに伴い鎌倉時代を中心とした中世の焼き物（山茶碗）が大量に出土する一方、弥生・古墳時代の土器片も出土したそうです。特記すべきは、前述のS字状口縁台付甕形土器で、煤跡も綺麗に残るヒビや欠けも無い完全な一体（右写真）です。また、古代と推定される木臼のようなものを転用した井戸枠が出土しているそうです。

ちなみに、八竜遺跡は、南河田町の氏神社である神明社に明治時代に合祀された八竜亀ノ宮があった場所で、これまでも愛西市最古である弥生時代の土器片（佐織公民館の歴史民俗資料室に常設展示）などが発見されていました。八竜遺跡の北東1kmには千引町の奥津神社があり、そこから古墳時代の三角縁神獣鏡が、八竜遺跡の南500mには諸桑町の満成寺があり、そこから弥生時代の古船が出土していますので、これらが発掘されても不思議ではないのですが、海部氏や尾張氏という当地の地名由来となった古代豪族に関わる遺物、古代・中世に関係する遺物が身近な場所で新しく発掘されたことは、当地の古代ロマンを語ることに楽しみになりました。そして、発掘物の展示が待たれます。



S字状口縁台付甕形土器



調査区北部完掘後の風景

# 祭マニアのための天王祭



毎年7月の第4土日曜日（今年は25・26日）に開催されている「尾張津島天王祭」が、ユネスコ世界遺産の無形文化遺産候補となりました。

尾張津島天王祭は365個の提灯を飾り付ける華やかな巻藁船が5艘登場する宵祭が有名ですが、祭はそれだけではありません。他にもこれこそ日本の祭だと感じられる神事がたくさん実施されています。（3頁に続く）

[写真：愛西市西保町で開催されている星宮試楽後の行列]

<表：祭マニアとして一度は見ておいた方がよい神事や祭事>

神事名	*	開催日時	開催場所（市江車）	（津島）	
斎竹立て	15	7月11日（土）	14時頃	東保町 東保公民館	津島市内
置物定め	14	7月12日（日）	11時頃	東保町 宇佐美家	
人形作り・花切	8	7月18日（土）	14時頃	東保町 宇佐美家・東保公民館	
花付・鉾剥ぎ	7	7月19日（日）	14時頃	東保町 東保公民館	
一夜酒頒布	4	7月22日（水）	7時頃		津島神社
神葎刈神事			8時頃		
船分	3	7月23日（木）	7時頃		天王川公園
津島車花付			15時頃		津島市内
市江車お払い	2	7月24日（金）	15時頃	東保町 東保八幡社	
稚児打ち廻し			19時頃		津島市内
神輿渡御	1	7月25日（土）	10時頃		津島神社
星宮試楽			15時頃	西保町 星大明社	
宵祭 如意点火			19時頃		天王川公園
大御饌調進祭	0	7月26日（日）	0時頃		津島神社
朝祭 山揚げ			7時頃	天王川公園	
出船			9時頃		天王川公園
鉾持ち衆			9時半頃		天王川公園
神輿還御			10時半頃		津島神社
神前奏楽			11時頃		津島神社
神葎着岸祭	2	7月28日（火）	16時頃		天王川公園
神葎祭	8	8月3日（月）	16時頃		天王川公園

<\*祭の中心となる大御饌調進祭から数えて何日前か何日後>

注) 朝祭の終わった日（26日）の深夜、神葎放流神事がありますが、見ると祟りがあるとされます。

その代表的な例が、朝祭の時、市江車の鉾持ち衆が津島神社の太鼓橋に張られた注連縄（しめなわ）を切る神事（右写真）です。これは、新しい神様を迎え入れるための重要儀礼であり、京都で開催されている祇園祭のハイライト、山鉾巡行開始時に長刀鉾が京都四条通にある御旅所前の斎竹（いみたけ）に張られた注連縄を切る神事と同じ意味があります。



市江車は、愛西市東保町を中心とした市江車保存会のみなさんによって、朝祭の2週間前から東保公民館などで色々な準備をされています。特に、津島の天王川公園で宵祭が実施される土曜日（今年には25日）には、愛西市西保町星大明社で古式ゆかしい星ノ宮試楽（2頁写真）が開催され一見の価値があります。

そのような、祭マニアとして一度は見ておいた方がよい神事や祭事を別表に紹介します。なお、大御饌調進祭（おおみけちょうしんさい）は真っ暗な深夜に実施されていますし、一部の神事は神聖な儀礼（女人禁制など）として開催されておりますので見学する際にはご注意ください。また、開催時間は例年の予定であり、時間厳守で開催されているわけではありません。それらの点もご承知おきください。

今年は各祭事をあいさいボランティアガイドの会で見学したいと思っています。関心がある方は、観光協会へお問い合わせ下さい。

## 信長も見た天王祭

勝幡城は、信長の祖父である信定が永正年間（1504～1520年）に中島郡・海東郡・海西郡を統治するため3郡の郡境に建て、大永年間（1521～1528）には港街・津島を支配下に置きました。勝幡城址は今でも稲沢市と愛西市にまたがっています。戦国時代の覇者である織田信長は1534（天文3）年5月28日に勝幡城で生まれたとされます。今年も「NPO法人・信長生誕を育む会」が5月17日（日）10時頃から愛西市勝幡町の勝幡小学校周辺で生誕祭を計画されています。

さて、信長の時代には、信長が尾張を統一して清須城へ移っても津島と友好的関係にあり、津島市に伝わる記録『大祭勘例帳』には、1558（弘治4＝永禄元）年の記述として「上総殿（織田信長）が橋の上に来られて祭をご見学され、女房達が橋の横に棧敷を設けられて祭を見学された」とあります。永禄元年という年は、桶狭間合戦の2年前です。また、1582（天正10）年の記述として、「6月2日に明智が謀反を起こし上様は亡くなられたので、素車にて実施した」と記載され、織田信長の死去に哀悼の念を示して祭を実施したと記されています。

ここで注意したいのは、『大祭勘例帳』に1599（慶長4）年までは、津島5車の内、堤下・米之座が陸車であり、その後、船になったことがわかっています。よって、信長が見た天王祭は、現在の祭事とは違ったものですが、織田信長、歴代尾張藩主も楽しみにした尾張津島天王祭が今年も開催されます。



# あいさいボランティアガイドの会 4月定例会 議事録

◆会議（4月19日（日）9～11時、於：愛西市文化会館、19名出席）  
下記議題について話し合いました。

## 1) VG 研修バス旅行について

実施日を再検討しました。日程が確定したら別途ご連絡します。

## 2) 5月定例会・役員会（5/17）、および総会（5/28）について

## 3) 木曾三川レガッタ開催（5/10）について

## 4) 今夏の漁業体験、蓮見の会、日程について

漁業体験のリハーサルを6/27（土）に予定しています。

## 5) その他

### ①佐屋立田地区のガイド依頼（6/11）について

### ②尾張津島天王祭の舞台裏ツアー（7/11～8/3 2頁参照）について

5月定例会（5/17）にて概要説明、6月定例会（6/21）にて下見を予定しています。

### ③勝幡地区でのガイド結果（4/2）について

### ④あいさいさん新グッズについて

昨年秋のアイデアコンテストで提案された絵葉書セット、エコバッグ、エプロンが商品化され観光協会でも販売開始されます。可愛くデザインされたエコバッグ（写真）は、立ち寄り温泉へ行く時の着替え入れなど旅行時のサブバッグとして使えて便利です。

### ⑤木曾川下流地区観光連携協議会の勉強会への参加報告

## 6) 分科会



◆愛西市観光協会が関係する5・6月催事の案内

・4月30日（木）全日本うまいもの祭り（於：愛知県モリコロパーク）

・5月 3日（日）あいさいさん新グッズ記者発表会

・5月17日（日）10:00～ 信長生誕祭（於：勝幡小学校）

うつけ囃子披露、佐織中・佐織西中ブラスバンド演奏、落語、講演会（服部徹氏）など

・5月18日（月）15:00～ FM ななみ

「聞いてちょ！ 海部情報」出演

・5月28日（木）愛西市観光協会、ボランティアガイドの会

年次総会（於：佐織公民館）

・6月 6日（土）手羽先サミット（於：金山総合駅）

◆今夏の予定

・蓮見の会（7/11-12）

・漁業体験（7/20,8/2,8/30）

・尾張津島天王祭（7/25-26）



## V G 5月定例会の予定

集合時間：5月17日（日）13時30分

集合場所：佐織公民館

内 容：今夏に向けた催事の進捗状況、総会について